

派遣経験を生かした教育活動事例報告

堀口 かえで

(15-1, ルーマニア, ソーシャルワーカー, 大東市立谷川中学校)

大阪府の大東市立谷川中学校の堀口と申します。ちょっと画面の方はなしでお話の方だけで進めていきたいんですが、一応資料としては配られてますが適当に見てください。

私は派遣前は同じ大阪府の大東市立北条中学校という別の中学校で養護教諭をしておりました。7年ほど勤めました。その後、平成15年4月から17年にかけてルーマニアという国にソーシャルワーカーとして派遣されておりました。活動の内容はストリートチルドレンの保護活動を行いました。それから帰国後ですね、平成17年4月に戻ってきました、現在の勤務校であります大東市立谷川中学校の方に養護教諭として勤務しまして、ただいま3年目が終わろうとしております。

画面を見ないとちょっとやりにくいので、すみません。ストリートチルドレンについて、帰国後すごく他の帰国隊員の方もそうだと思うんですけども、いっぱい伝えたいことがあると。帰ってきた私も同じく伝えたいことだらけで帰ってきたのですが、まず自分の出会った子どもたち、ストリートチルドレンについて伝えたいと思いながら、1年目活動しました。そのうち2年3年といくうちに子どもたちと会話をしていますと、あっルーマニアってストリートチルドレンばかりなんだみたいなマイナスのイメージの方が印象に残っているのを感じ出したんですね。そのうちにルーマニアについてのいいところであるとか文化であるとか、それから自分自身が経験したボランティア活動というのはどういうことなんだろうか、そして私は中学校の生徒を相手にしておりますので、君たちが5年後こんな選択肢があるんだよっていう、人生の生き方のようなものも伝えたいな、そんなふうを感じ出しました。それからですね、そうやってどんな3年間を過ごしてきたかというのがちょっと写真で紹介してたんですけども、1年目については私は保健室の先生ですので、保健室の前にルーマニアのコーナーを作ったり、各学年で行う道徳だとかそれから社会科といったいろんな教科の中でストリートチルドレンや人権についてルーマニアについてお話することもありました。それから文化祭、たぶんどの方もされると思いますが文化祭でのルーマニアコーナー、それから谷川中学校では谷中祭りとして申しまして地域教育協議会が主催するお祭りがあるんですね。そこでも写真展やフェイスペインティングを行いながらルーマニアについて紹介する。それからルーマニアに物資を送るというのも行いました。校外では各先生方への教職員の研修でお話をしたり、他の中学校に出前の授業をしたり、そんなことも行っていました。18年度2年目ですね、2年目になりますと同じ文化祭で取り組むにしてもちょっと一味変えました。というのは、やっぱり君た

ちにいろんな生き方を伝えたい。そこで元協力隊員、現職参加ではない協力隊員にも協力をさせていただいて、生徒会の生徒と一緒にルーマニアのダンスを踊るというという企画をしたり、それから養護教諭ですので、他の養護教諭の先生方と子どもたちの健康についてルーマニアの子どもたちの現状等を伝えながら研修をするというという校外での活動もありました。今年ですね3年目、平成19年度ではJOCAのほうからお話を頂いて国際交流DAYと申しまして、理数科教員のアフリカから来られた方々を学校に招待して、いろんな交流を深めました。ここでとても面白かったのが、PTAの方が学校の教育について、そのアフリカの教育との違いについて来られた方々と交流をされる、本当にちゃんとした議論になったんですね。教師としてすごく肩身の狭い、そういうご意見もたくさんありましたが、本当にこういったことが本当の地域の中での交流なんだなと思いながら拝見しておりました。

そういうふうに3年間過ごしたんですけれども、ある教職員向けの研修会ですね、ある元隊員の先生が学校で1人で何からはじめたらいいんですか、どうしたらいいんですか、どうやってそんなにやってはるんですか、聞いてくださったんですね。これが今回のこのパネルディスカッションのテーマなのかなと思いながらやってきたわけですけれども、これからお話される先生はネットワークがある、私の場合はネットワークが全くありません。たぶん帰国された元隊員の先生方はほとんどが私のような立場なのかなと思うんです。帰ってきたときに転勤する、その学校の状況の様子を見ながら1年目からどんなふうに分のよさを出していったらいい、経験してきたことを伝えていこう、たぶんそこが1番の最初にぶつかる課題かなと思うんですが、私はその時にどうしようもない、いろんなこと考えました。しかし現在勤める勤務校でも、非常に学校の様子は厳しい。部活動の指導、教科指導、それから学級指導、先生方ありますよね。その上毎日のように生徒指導上の問題が日々起こる。もうたぶん本来の職務を行っていただけでいっぱいいっぱいというのが先生方の現状じゃないか。そこでどういうふうにこの自分のよさを活かしていくかということに、あるものを活かしていこうじゃないかというのが私の考え方です。わざわざ私の話をするために人を集めない。人が集まっているところで話をする時間を少しもらう。そういうふうに学校の中で活動を始めました。よくよく学校の中って見てみると日本の学校はすごくシステムが整っているの、わりとやりやすいですね。いろんなそういうチャンスはよく見るとあります。例えば本校ですと、昼の放送ひとつとっても文化委員の子が音楽をかけているだけなんです、そこで文化委員の子と交渉して時間をほしい。毎日1つだけ挨拶をしていったりルーマニアの学校の様子の話をしたりしているうちに、また広がっていく。また、掲示コーナー、学校というのは至る所に掲示する場所もございます。それから全校集会、学年の取り組み、本当にあります。その中であまり自分に負担をかけずに、ちょこちょこやっていくうちに学校の中でも存在感が出てくるというか、自分の居場所というか、認めていただけるようになりすね。2年目3年目、それをどういうふうに広げていくかということなんですけれど、自分の活動にし

ないというところです。例えば、物をおくるといっても生徒会の責任でやっていただく。国際協力で共同で企画を出していただく。自分はその中のエッセンスの自分しかできない場所だけとっていく。全部どうしても自分はやりたいと思ってしまうんですね。でもまわりの人を当事者として、まわりの人が自分でやるんだというふうに意識していただいて進めていくと、本当に自分は小さいですけど意外といろんなことができます。そんなふうに2年目3年目と取り組んでおります。

その中でどういうふうに理解者、協力者を得ていくかということなんですけれど、いろんな人に当たり前ですけど相談をしながら。それから日本では企画書は大事ななと思いました。2ヶ月前の企画委員会、1ヶ月前の職員会議、こんなところでたった1つの昼の放送、小さな取り組みでもそういうことを出しておくで非常に理解を得やすいですし、はっきりとした意図を理解してもらえます。現場の同僚ですね、教職員は自分の仕事でいっぱい입니다から、こういう余分なことに対してなかなか協力をお願いできない。でも理解者であってもらわないといけない。教職員には理解者であってもらわないといけない。そして子ども、PTA、地域の方、そういった方々を協力者にしながら進めていくと、なんとなくルーマニアがすごく有名になってきたという、そういうところではないかなと思います。それからですね、もう1つ、どのように還元するかということで、企画力、実践力という目に見えない直接的な経験でないところをどう活かすかということなんです、私は組織を作ったり、人々をつなげるということを非常に学んで参りました。そこでその力をどう活かすかということで、大東市タバコゼロプロジェクトというのを立ち上げています。これは大東市の1つの学校だけじゃなくて、全ての中学校それから各保健機関ですね、それから市役所、そういったところが連携をとりながら1つのタバコゼロに向かってプロジェクトを進める。もう1つは、プロジェクトT、谷川の略なんですけれども、学校の中で谷川中学校を大好きになるような生徒たち、そういう大好きな谷川中学校を育てていこうというボランティアグループで、突然活動が始まる。例えば、クリスマスに学校を飾る、楽しくやる、そんな企画を進めたり実践をしております。なかなか現場にいると1人で1つのことを進めるというのは大変なんです、今日この場に来て皆さんのいろんな発表を伺って、また新鮮な気持ちでやっていこうかなと思いました。ありがとうございました。